

升色紙ますしきし

第十回

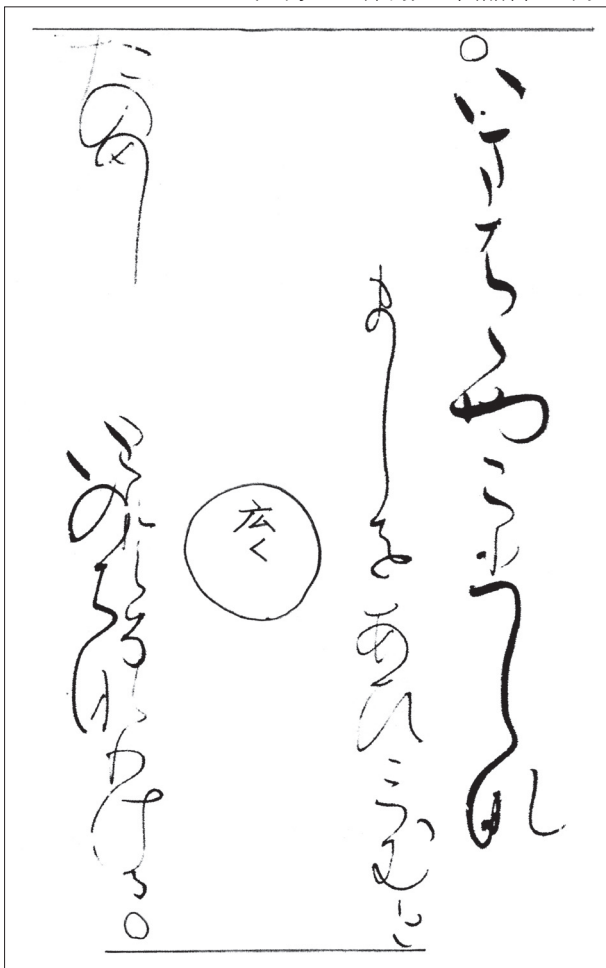
1、語句まは「い万者な、やこ悲し那ましなをあひ三むとみ

たのめしとこ登曾と

いのち那利なける

半紙臨書課題 宮 絢子先生担当

(2月22日締切) 出品料440円



一字書課題

(2月22日締切)

積

- (1) 書体自由
- (2) 半紙タテ ※ヨコは中止
- (3) 落款は余白に調和を工夫し書き入れる
- (4) 出品料 四四〇円
- (5) バーコード券貼付

太枠内の臨昇の隣の空欄に一字と記入 段級は無記入

条幅随意参考

『い万者まは、やこ悲し那ましなをあひ三むとみたのめしとこ登曾と いのち那利なける』

半切に二行で臨書する。左余白に全体の調和を考えて落款を入れる。

※抜粋可。条幅は一枚目無料、二枚目から五五〇円。条幅部に出品する場合はバーコード券余白に「条臨」と記入。

2、形式 半紙をたてに使用し、小筆で臨書する。落款は、左余白に「〇〇臨」と入れる。

3、概観 升色紙の学習課題はこの歌から始まった。第一回目には「充分な筆圧と息の長い運筆の意識」、第二回目は「たっぷり筆圧と息の長い運筆の意識」、第三回目は「立体感あふれる升色紙に近づくために」、第四回目は「行を重ねる」それぞれの課題を大筆で大きく丁寧に臨書した。後半は、大筆の臨書で学んだことを生かした臨書が始まった。

升色紙に見られる散らし書きの方法は、一般的な散らし書きのほかに『行を重ねるもの』(今回事のあるもの)や、『行が重なりそうになるもの』が多

数ある。それを紹介したり、取り上げて学習する時間がなく残念な思いがある。是非、本を求めて学習していただきたい。

4、今回の課題 升色紙臨書学習の『総集編』

(1) 行頭：一行目と三行目がほぼ同じ高さ。

(2) 行脚：二行目と三行目がほぼ同じ高さで終わるように。

(3) 行間：中央を広く空けた四行書きである。一・二行はぶつからないが、三行目に四行目が重なる部分がある。

(4) 行の傾き：殆んどない。

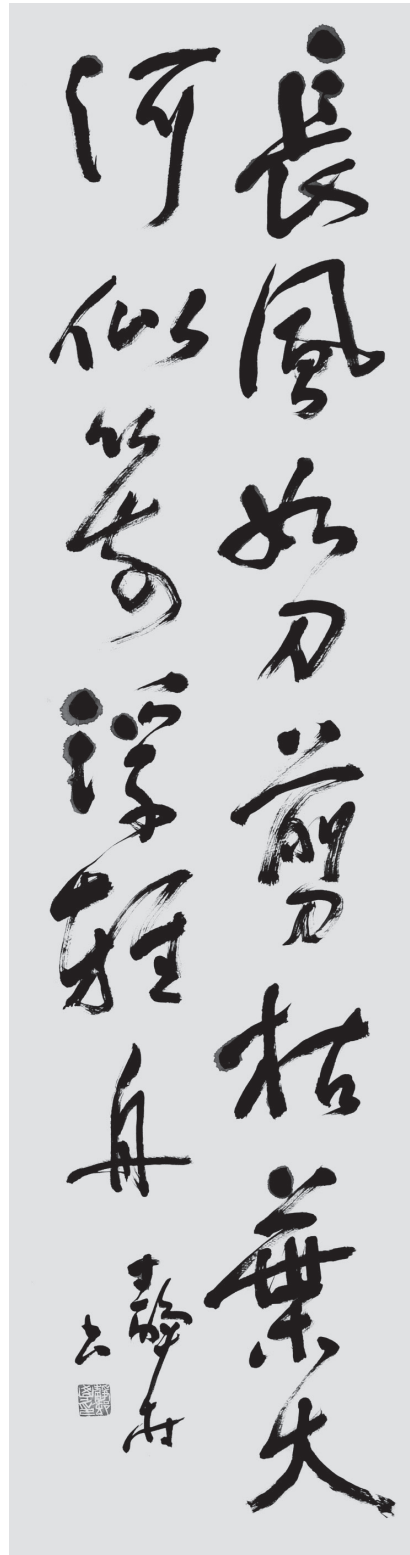
(5) 墨量：三行目までひと息に。四行目で墨つぎをする。

(6) 線の変化：墨量に対応した太い線。渴筆になるに従い鋒先をきかせ紙にくい込む細い線など。

これまでの学習をもとに、様々な古筆を手に取り臨書し、是非その成果をもとにした作品作りをしてください。

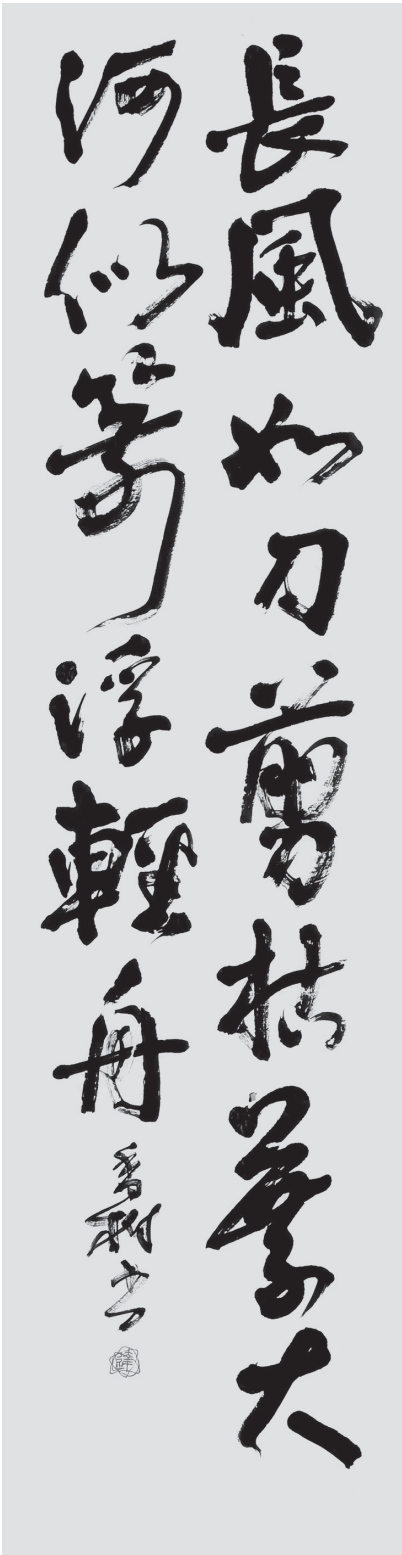
A
鈴木静村先生書

長風如刀剪枯葉 大河似箭浮輕舟（韋応物）
長風は刀の如く枯葉を剪り、大河は箭に似て輕舟を浮ぶ。



B
高橋香樹会长書

筆の弾力を遣いこなせるよう徹底習得してほしい。長風 連綿させる意気込みで。如刀 連綿の用筆。剪 前 大きく。枯 墨継ぎ、偏旁を変化。葉大 連綿。箭 渴筆にも「味」を。浮 墨継ぎ。軽 と連綿。二字連綿を多用、筆の「つながり」に主点を。



「行草単体の作。今回の課題は、「刀」を含む字が「刀・剪」と二字。「前」を含む字が「剪・箭」と二字あり工夫が必要と思われた。そこで「箭」は草書に、「剪」は行書にしてみた。しかし、「刀」はあまり変化させることができませんでした。墨継ぎは「葉」と「浮」にしましたが、「葉」よりも「枯」にした方がよかったですか。
訳：遠くから吹きくる風は、刀のように鋭く枯れ葉を切り落とし、大きな河の流れは矢よりも速く軽い舟を浮かべて下る。

予告 昇試第一部漢字（三月二十二日締切）

願君早悟玄中趣

學我優遊物外修（無名人）

- ◆注意
- ・条幅部の出品は一人一点（バーコード券の条漢を○で囲み（1）と記入する。）
 - ・二枚目からの出品（バーコード券の条漢を○で囲み（ ）に何枚目か数字を記入する。出品料550円）

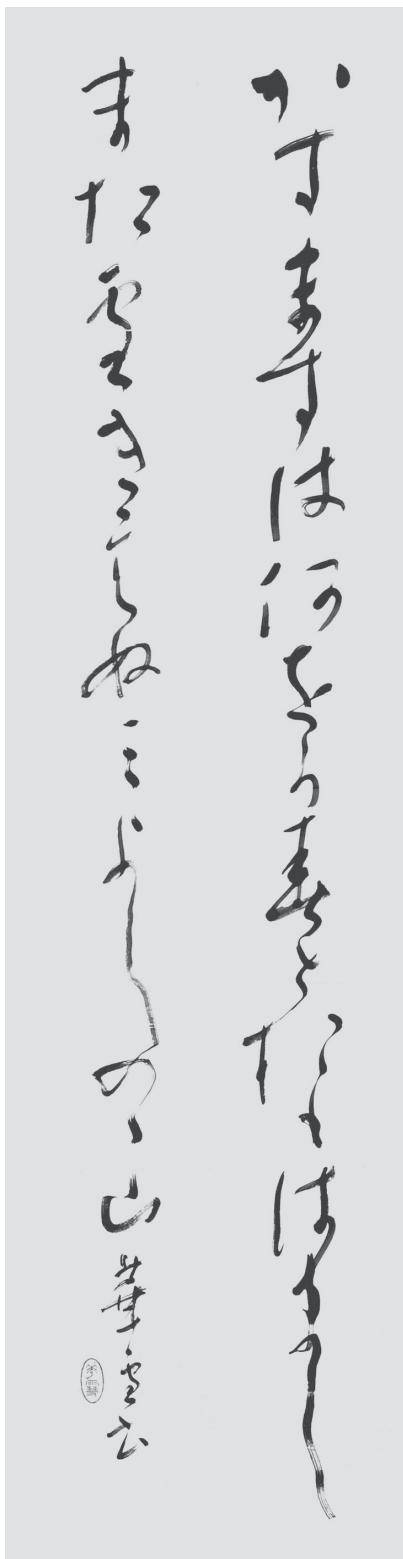
条幅部かな課題参考

(二月二十二日締切)

A

平岡華雪先生書

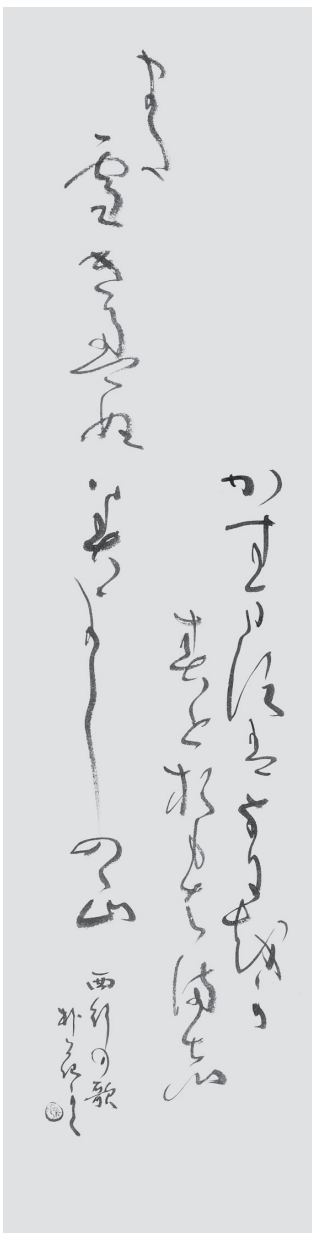
かすまずは何をか春と思はましまだ雪きえぬみよしの山(続後撰和歌集 西行法師)
かすますは何を可春と於もはましまだ雪きえぬ三よしの山



B

向山朴花先生書

かす万須盤奈尔越可春と於も者満志末多雪き盈ぬ美よしの山



西行法師について

西行は平安時代末期から鎌倉時代初期にかけての武士、僧侶、歌人。旅の歌人としても有名。和歌は二、三千首が伝わり、多くの和歌は、後に続く歌人に大きな影響を与えた。また、能や落語、文学作品の題材にもなる。「願わくは花の下にて春死なむそのきさらぎの望月のころ」は有名で、「山家集」「統古今和歌集」に収録されている。

学び方

歌意：もし霧に霞んでいなかったら、何を証拠に春と思おうか。まだ雪の消えない吉野山も霞んでいて春になったことがわかるよ。

今回は、上の句をやや下方に控え目に、下の句に照明をあてて書いてみました。はじめの二行は、行間を詰め過ぎると、線と線の響き合いがうまくいかず、文字の長短、大小、太細そして振幅の試行をしました。

通常、山、雲、空、月 など、高い位置に存在するものは、上方に書く、ということは、その昔、師匠から学んでいたのが、下の句は高い位置におさめました。その場合、左下の余白が広くあいた時など、落款の位置に、歌人、俳人の作家名を書き入れるようにしています。

余白が線に負けることなく、文字群とかみ合う工夫も出来ると思います。

予告 昇試第一部かな(三月二十二日締切)

春の谷あかるき雨の中にして驚なけり山のしづけさ(尾上柴舟)

- ◆注意
 - ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
 - ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み()に何枚目か数字を記入する。出品料550円)

平岡華雪先生書

林泉遠心を會す(孫健)
訳：山林泉石を楽しんでこそ幽遠なる心を
もって相会することが出来る。

〈字配りに工夫を〉
右行三文字の右払いは、ハミ出さずに、しかも
のびのびと書きたい。これらと対応して左行の
「遠」この之繞も堂々と暢ばしたい。



漢字部課題参考 (二月二十二日締切)

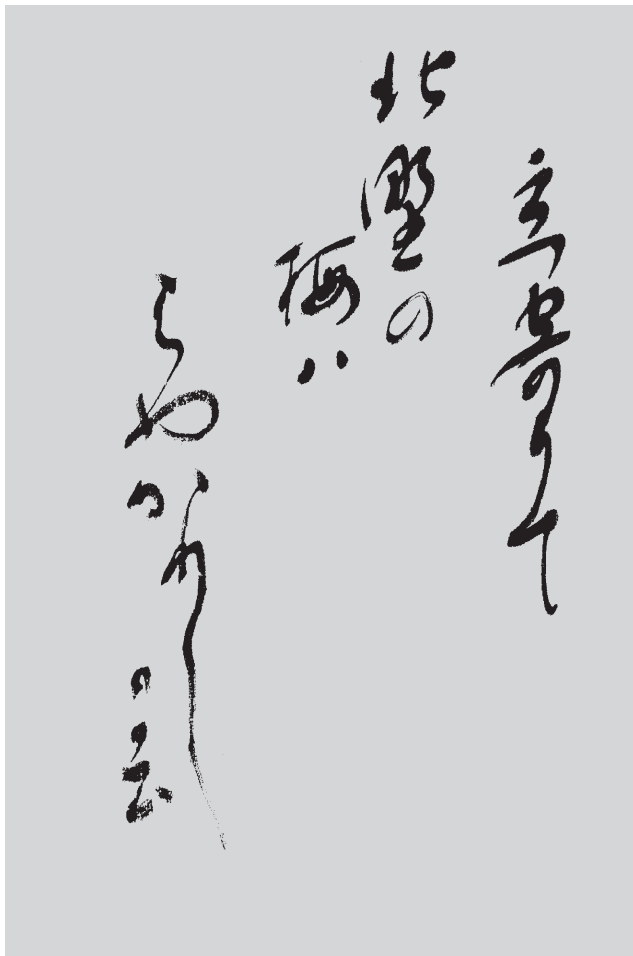
予告昇試第三部漢字(三月二十二日締切)

江山満花柳(劉因)

平岡華雪先生書

立寄りて北野の梅は早かりし(いはほ)
立寄りて北野の梅八者やかりし

〈意を用いて〉
三部構成の散らし。上の句、中の句に漢
字五文字の表出で、かなとのバランスが留
意点。下の句は、落款と合わせ、単調にな
らぬように。



かな部課題参考 (二月二十二日締切)

予告昇試第三部かな(三月二十二日締切)

挿木の芽今朝はひそかに葉をなせり(白田登代子)

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に①～④を記入し、作品左隅に貼付の上、出品して下さい。一般会員は無料、会員外出品料は460円。

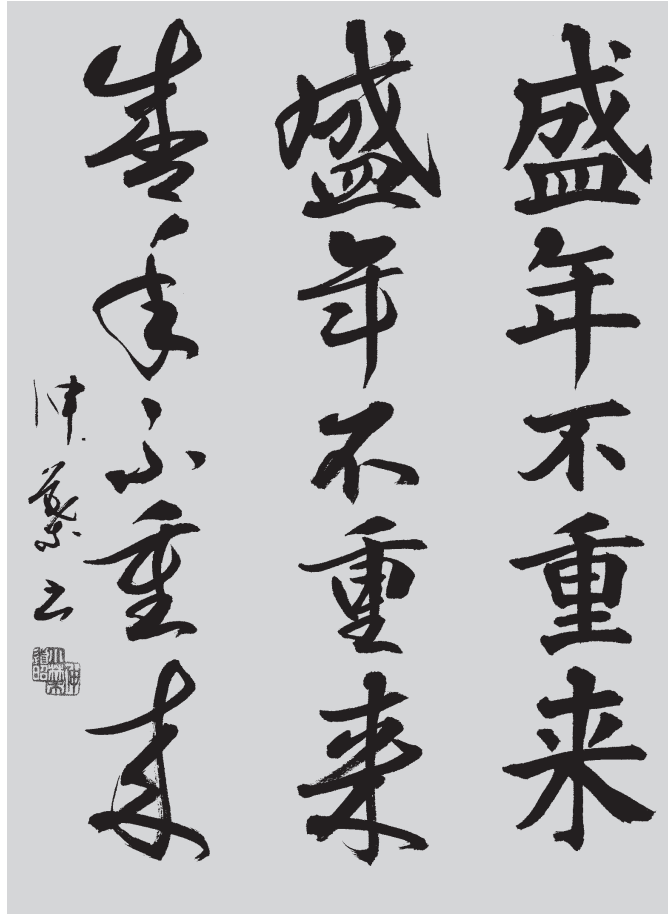
- ①出品部門(例：「漢字部」「かな部」) ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

楷、行、草、三体課題参考 (二月二十二日締切)

漢字かな交じりの書課題参考 (二月二十二日締切)

予告 昇試第二部漢字 (三月二十二日締切)

得歡當作樂 (陶淵明)



小林伸葉先生書

盛年不重来 (陶淵明)

盛年 重ねて来らず、

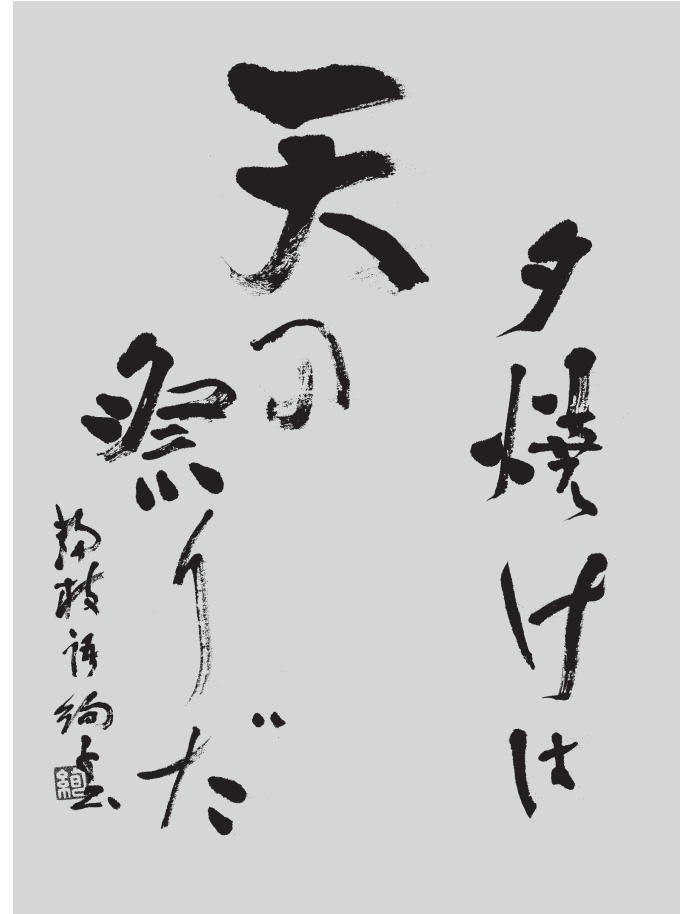
訳…若い時は二度とやって来ないし、

(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

宮 絢子先生書

夕焼けは天の祭りだ (宮静枝)

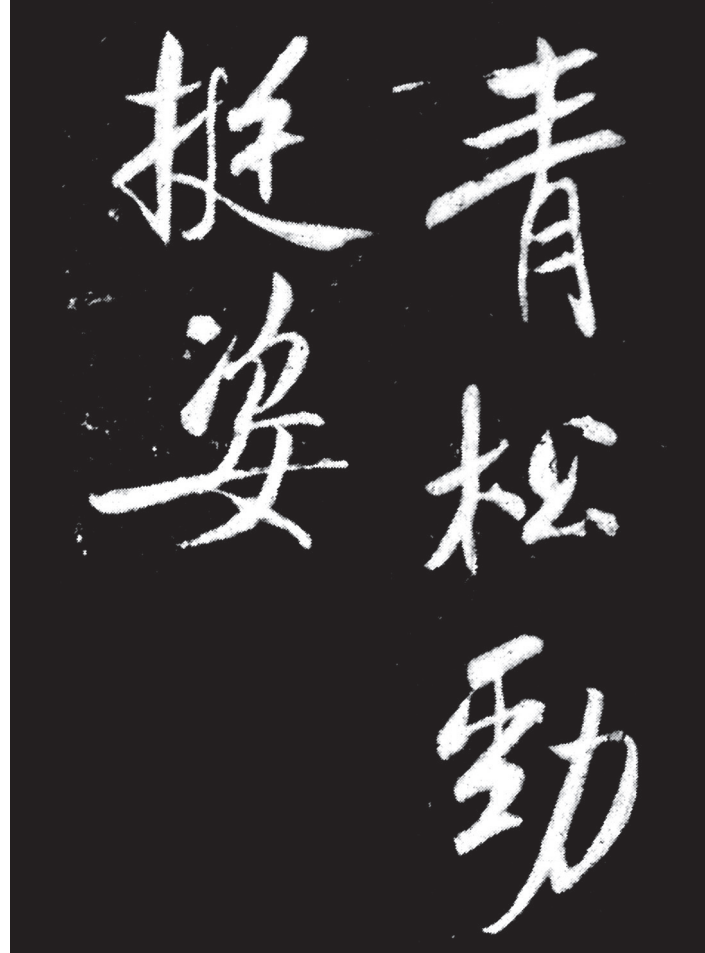
〔宮静枝詞華選集〕(未知谷)より



義母 (宮静枝) の詩集には、皆様に伝えたいメッセージがたくさんあります。太陽が一日の終わりを告げている夕焼けを見つけて、子どもが思わず発してしまいそうな「ことば」を、詩の中から切り取りました。「天」に力を込めるのか、「祭りだ」に力を込めるのか、書き手(あなた)の感動を中心に半紙作品に仕上げてください。

(1)出品料550円 (2)バーコード券余白に「漢か」と記入

随意部参考



蜀素帖 (米芾)

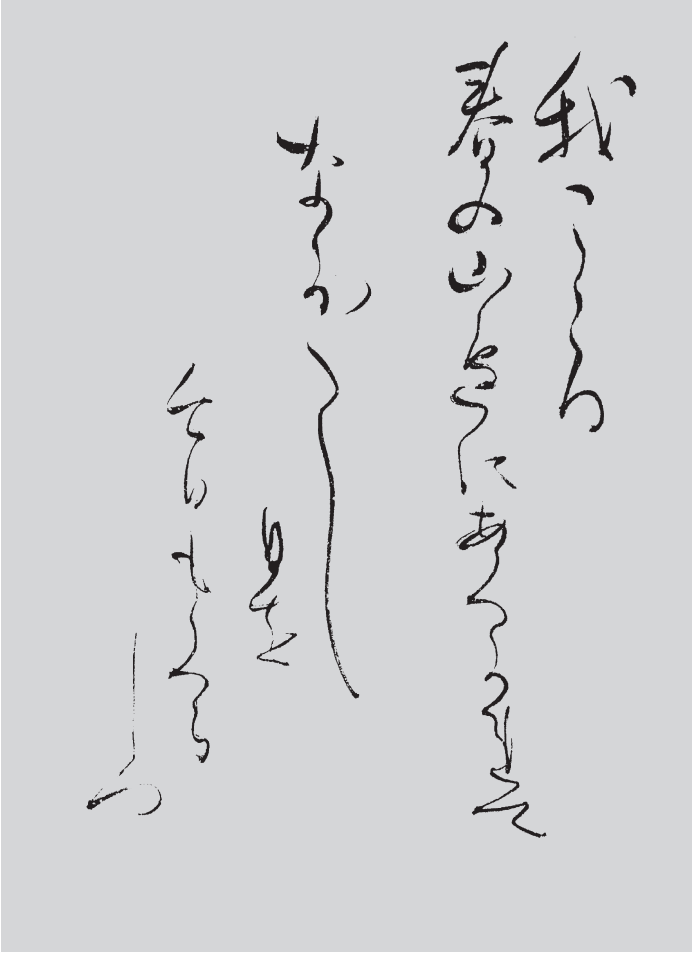
青松勁挺姿。
古に擬らえる。青松は勁挺の姿、
(天平書院)

(1)

随意部参考

高塚竹堂先生書

わが心春の山べにあくがれてながくし日を今日もくらしつ (新古今和歌集 紀貫之)
我こころ春の山邊にあく可連てながくし日を今日もくらしつ



予告 昇試第二部かな (三月二十二日締切) いづれをかわきて折らまし梅の花枝もたわに降れる白雪 (凡河内躬恒)

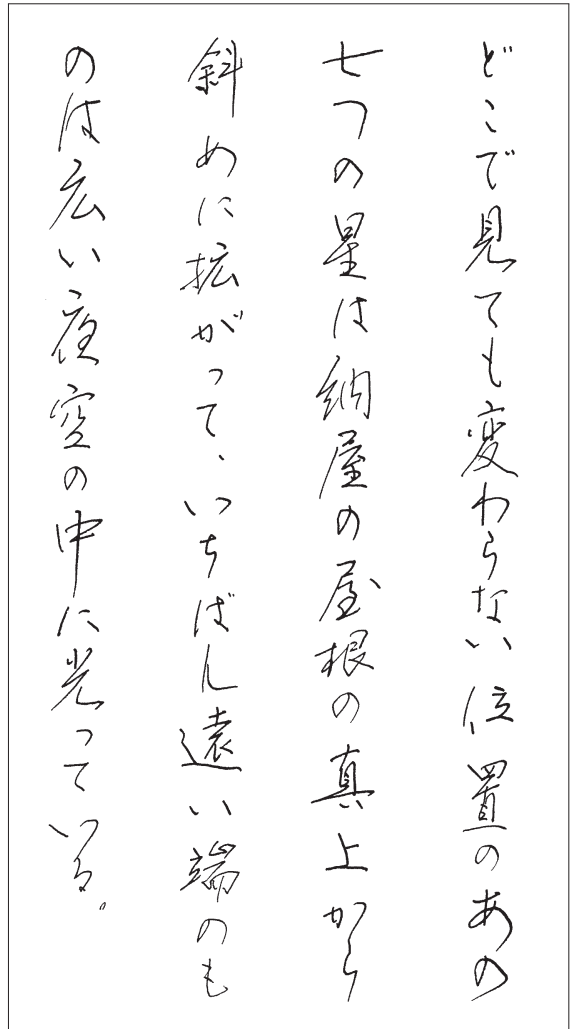
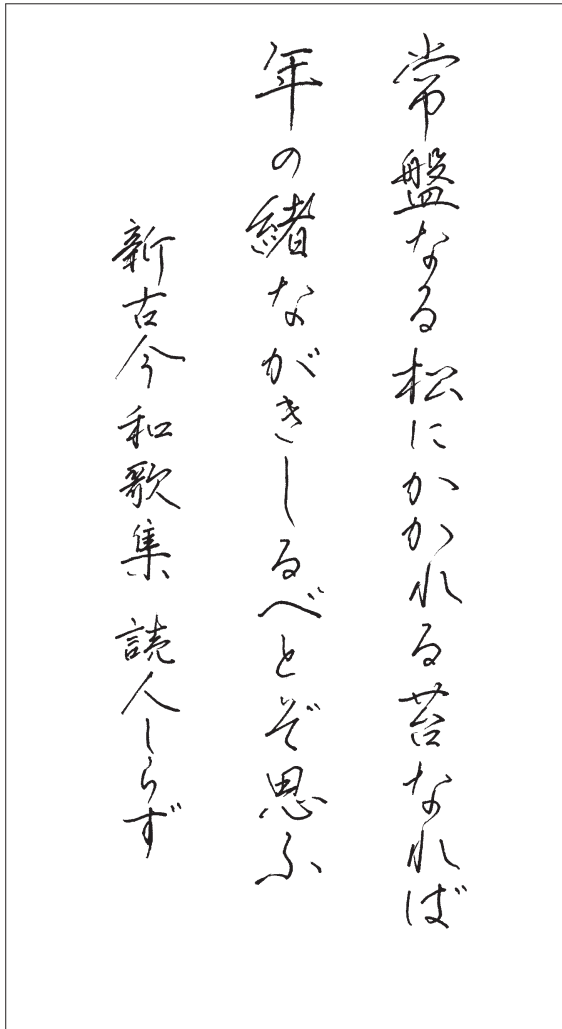
(1)随意部参考として出品してください。(2)会員外の出品料は460円。

赤木典子先生書

石原春香先生書

課題2 (初段格以下)

課題1 (初段以上)



課題1 (初段以上)

どこで見ても変わらない位置のあの七つの星は納屋の屋根の真上から斜めに拡がって、いちばん遠い端のもののは広い夜空の中に光っている。
『北極星』片山廣子

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位) 次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は四六〇円
- (5)

課題2 (初段格以下)

常盤なる松にかかれる苔なれば
年の緒ながきしるべとぞ思ふ

新古今和歌集 読人しらす

(出典も課題に含みます)